

児湯医療介護連携室だより

令和7年3月発行

1. Advance Care Planning(ACP人生会議)について

そのときが来たら考えられない **だから今、人生会議**

将来、意思決定をする能力が低下したときに備えて、治療方針・療育についての気付きや自分が大切にしていた価値観を患者・家族に(近い人)と医療者が共有し、ケアを計画する包括的な(プロセス)とされています。

どんなことを考えたいの？

どんな治療・ケアを受けたいですか。

例えば・・・病氣と闘って1日でも長く生きたい。延命につながるだけの処置はさけない。自分が望む生活ができる程度に、苦痛を取る治療を受けたい。

どんな所で療養したいですか。

例えば・・・家族やヘルパーなどの手を借りながら、できるだけ住み慣れた自宅で生活したい。病院や施設で療養したい。

どうやって話し合い、共有したらいいの？

ステップ 01

治療する前に大切にしたいことを考えてみましょう

- 家族や友人のそばにいたい
- 好きな事をしつづけたい
- 家族に負担をかけたくない。

ステップ 02

もしものとき、あなたの思いを伝えてくれる人を選びましょう

- どんな時でもあなたの希望を尊重してくれるのは兄弟、配偶者、子供

ステップ 03

かかりつけ医に質問してみましょう

- 今後予想される経過は？
- 必要な医療やケアは？

ステップ 04

希望する医療やケアについて話し合いましょう

- 痛みやつらさがなければ出来るケアをうけたい
- 入院するのはいやだ

ステップ 05

書き留めておきましょう

話し合った内容は記録として書き残し周囲と共有しておきましょう。

「もしものときにどうしたいか」は変わっていくことがあります。」

書面みたいなのは書きたくないというひとに対して、無理やり書かせてはダメです。(法的に無効です)「悩みながら、気持ちは揺れながら、決めきれない」というのもあっていいこと。最も大切なことは「想いをつなぐ」こと

2. 令和6年度児湯5町における在宅医療従事者のための研修会の報告

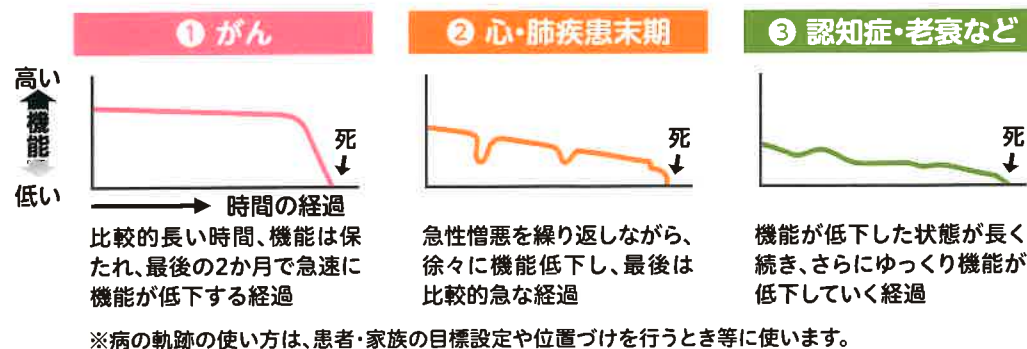


12月3日に宮崎大学医学部附属病院 板井 孝孝郎教授をお招きし児湯医師会と合同で研修会を実施しました。

138名と多くの方々に参加していただき、ACPについて理解を深めました。『今後それぞれの方がそれぞれの立場で患者(利用者)に日常的にコミュニケーションを図る中で、思いをACPとして記録(日々の)に残し、積み上げていくことが重要です。』と話されました。その中で患者(利用者)を理解し寄り添い、支援していく事ができると感じました。

3. 病の軌跡

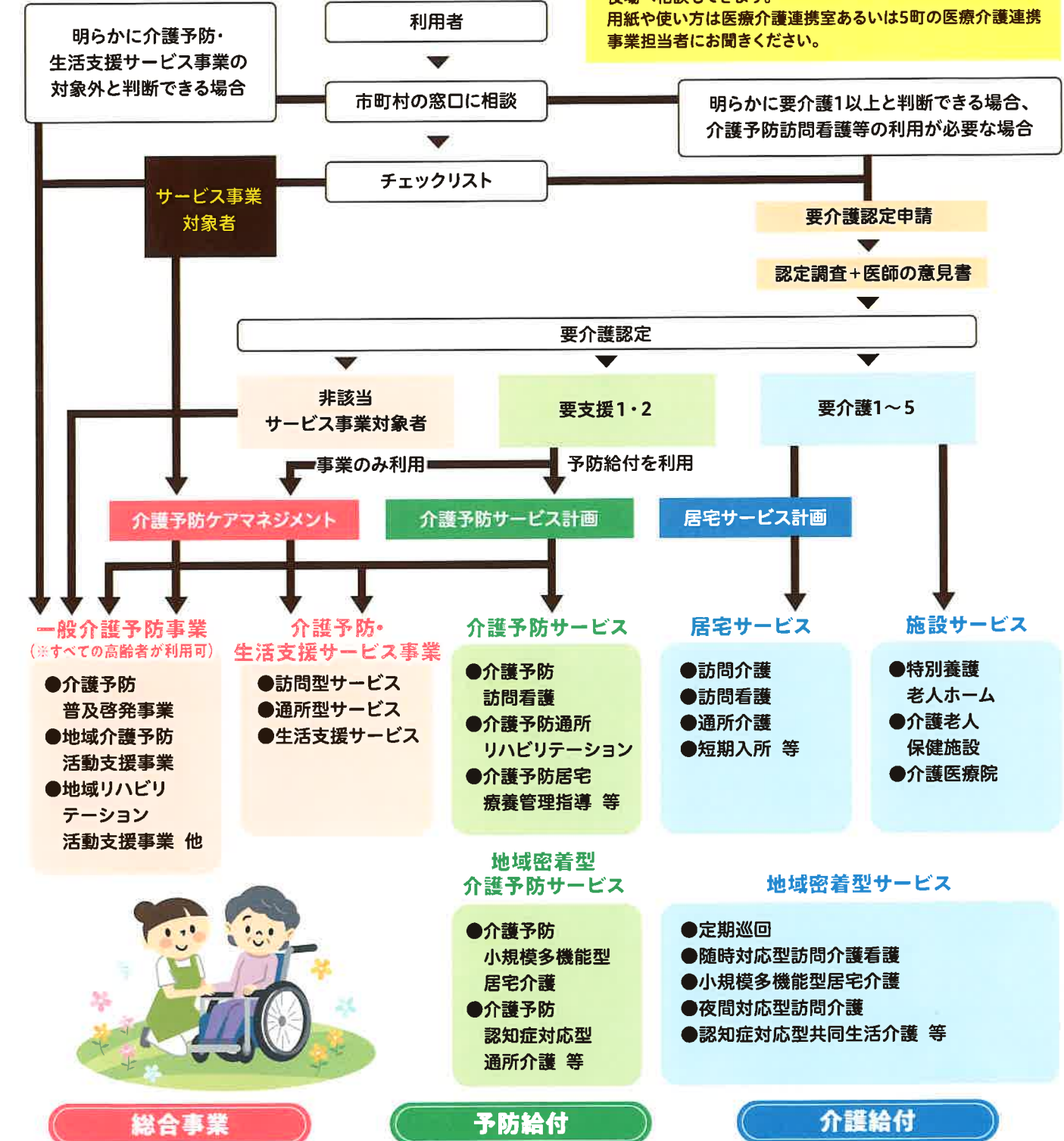
致死的な慢性疾患が時間の経過とともにたどる一般的な軌跡(Lynn,2003)



4. 介護保険サービス利用の流れ

病院・医院から介護保険を申請したい場合

児湯5町医療介護連携にて作成した介護保険相談連絡票に必要事項を医療者側が記入しご本人・ご家族がそれを持参し、役場へ相談もできます。用紙や使い方は医療介護連携室あるいは5町の医療介護連携事業担当者にお聞きください。



総合事業

予防給付

介護給付

ユーキャンのケア実用手帳2025年版引用(厚生労働省「介護予防・日常生活支援総合事業のガイドライン参照」)

5. 5町の担当課(相談窓口)

医療機関・介護サービス事業所などの専門職の皆様で在宅医療・介護連携に関する相談がありましたら、各町役場相談窓口又は、児湯医療介護連携室をご利用ください。

(1)新富町 福祉課 33-5727	(4)川南町 福祉課 27-8008
(2)高鍋町 健康保険課 26-2008	(5)都農町 福祉課 25-5714
(3)木城町 福祉保健課 32-4734	(6)児湯医療介護連携室 25-1031(呼) (都農町国民健康保険病院内)